

2026年 3 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年 2 月 9 日
東

上 場 会 社 名 日本農業株式会社 上場取引所
コ ー ド 番 号 4997 URL <https://www.nichino.co.jp/>
代 表 者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 岩田 浩幸
問合せ先責任者 （役職名） 管理本部総務・法務部長 （氏名） 吉岡 正樹 （TEL） 0570-09-1177
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年 3 月期第 3 四半期の連結業績（2025年 4 月 1 日～2025年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年 3 月期第 3 四半期	70,360	14.6	5,844	60.6	5,856	91.3	3,989	89.6
2025年 3 月期第 3 四半期	61,374	△3.0	3,639	42.4	3,061	71.7	2,104	44.1

（注）包括利益 2026年 3 月期第 3 四半期 5,690百万円（148.3%） 2025年 3 月期第 3 四半期 2,292百万円（△37.9%）

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年 3 月期第 3 四半期	50.95	—
2025年 3 月期第 3 四半期	26.83	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年 3 月期第 3 四半期	146,514	83,147	55.5
2025年 3 月期	152,216	79,423	50.8

（参考）自己資本 2026年 3 月期第 3 四半期 81,386百万円 2025年 3 月期 77,288百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年 3 月期	—	10.00	—	12.00	22.00
2026年 3 月期	—	12.00	—		
2026年 3 月期（予想）				15.00	27.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年 3 月期の連結業績予想（2025年 4 月 1 日～2026年 3 月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,300	9.3	9,200	7.3	8,000	12.9	5,400	129.2	68.97

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 4社(社名) Interagro (UK) Ltd.、Nichino Mexico S. de R. L. de C. V. 他2社、除外 1社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年3月期3Q	81,967,082株	2025年3月期	81,967,082株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2026年3月期3Q	3,641,362株	2025年3月期	3,710,277株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年3月期3Q	78,297,504株	2025年3月期3Q	78,427,264株
------------	-------------	------------	-------------

期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式を自己株式に含めて記載しています。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結損益計算書に関する注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国において景気の緩やかな拡大が続いたものの、関税率引上げに伴う不透明感が残りました。欧州では、ドイツを除くユーロ圏を中心に景気が持ち直し、英国でも緩やかながらも景気が回復しました。中国では不動産市場の停滞が続き、景気は足踏み状態となりました。また、わが国では、米国の通商政策等の影響が一部にみられ、企業収益の改善は鈍化したものの、景気は緩やかな回復基調を維持しました。

このような事業環境の下、当社グループは中期経営計画「Growing Global for Sustainability (GGS)」に取り組み、事業戦略の深化、環境経営の高度化および人的資本経営の推進を行い、社会全体と当社グループの持続可能性の両立を目指しました。

当第3四半期連結累計期間における主な取り組みとしては、自社で開発を進めておりました新規有効成分「シベンゾキサスルフィル/Cybenzoxasulfil」（開発コード：NNI-2101、NRI2211）について、日本および韓国における登録申請を完了しました。また、持続的なグループ成長のための事業と収益の拡大を目指し、BASFジャパン株式会社（以下、「BASF社」）との間で、BASF社商標および登録番号を冠した果樹分野向け製品の日本国内での独占供給による販売について合意し、当該製品の販売を開始しました。さらに、国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究センターとのオープンイノベーションを通じ、天然物由来原料を活用した高付加価値化合物の生産技術開発に関して事業化に向けた特許出願を行うなど、新たな収益源の創出に向けた取り組みを推進しました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、中核事業である農薬事業で、各地域での販売が増加したことなどにより、703億60百万円（前年同期比89億85百万円増、同14.6%増）となりました。利益面では、ブラジルでの原材料価格下落に伴う収益性改善などから、営業利益は58億44百万円（前年同期比22億5百万円増、同60.6%増）、経常利益は58億56百万円（前年同期比27億94百万円増、同91.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は39億89百万円（前年同期比18億85百万円増、同89.6%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間における報告セグメントの概況は以下のとおりです。

[農薬事業]

国内農薬販売では、米価高騰による生産意欲の高まりから水稻栽培面積が増加し、主力自社開発品目をはじめとした水稻向け製品の販売が好調に推移しました。これにより、国内販売全体の売上高は前年同期を上回りました。

海外農薬販売では、北米で、アメリカおよびメキシコ向けに殺虫剤トルフェンピラドの販売が堅調に推移しました。中南米では、ブラジルにおいて流通在庫の適正化を推進した結果、Sipcam Nichino Brasil S.A.の売上高が前年同期比で増加しました。欧州では、バイエル社向けフルベンジアミド原体販売が増加したほか、果樹やばれいしょ向けのピラフルフェンエチルの販売が好調に推移しました。

アジアでは、西アジアにおいて多雨による散布機会逸失により販売が伸び悩んだものの、Nichino India Pvt.Ltd.においては同業者向け販売が増加したことから前年同期比で売上高が増加しました。これらにより、海外販売全体の売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、農薬事業の売上高は656億63百万円（前年同期比84億84百万円増、同14.8%増）、営業利益は、ブラジルにおける収益性改善などから54億72百万円（前年同期比19億1百万円増、同53.3%増）となりました。

[農薬以外の化学品事業]

化学品事業では、シロアリ薬剤分野の販売が堅調に推移しました。医薬品事業では、国内の爪白癬向けなどで外用抗真菌剤リコナゾールの販売が堅調に推移しました。

以上の結果、農薬以外の化学品事業の売上高は31億17百万円（前年同期比2億24百万円増、同7.8%増）、営業利益は6億31百万円（前年同期比1億17百万円増、同22.8%増）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ57億1百万円減少し、1,465億14百万円となりました。これは、棚卸資産の増加を上回る売上債権の減少が主な要因です。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ94億25百万円減少し、633億66百万円となりました。これは、借入金の減少が主な要因です。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ37億24百万円増加し、831億47百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加及び為替換算調整勘定等のその他の包括利益累計額の増加が主な要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期通期の連結業績予想につきましては、2025年11月10日公表の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,332	26,214
受取手形、売掛金及び契約資産	47,513	27,611
電子記録債権	3,084	1,949
商品及び製品	22,827	31,779
仕掛品	760	976
原材料及び貯蔵品	14,150	16,022
その他	5,744	6,358
貸倒引当金	△775	△971
流動資産合計	116,639	109,941
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,961	3,871
機械装置及び運搬具（純額）	5,098	4,825
土地	5,548	5,558
その他（純額）	1,497	2,373
有形固定資産合計	16,106	16,628
無形固定資産		
のれん	—	785
ソフトウェア	1,385	1,451
技術資産	—	783
その他	592	625
無形固定資産合計	1,977	3,646
投資その他の資産		
投資有価証券	11,883	10,736
その他	5,857	5,907
貸倒引当金	△248	△346
投資その他の資産合計	17,492	16,297
固定資産合計	35,576	36,573
資産合計	152,216	146,514

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,646	20,328
電子記録債務	652	515
短期借入金	12,742	7,608
1年内償還予定の社債	3,826	4,197
未払法人税等	1,158	1,380
賞与引当金	967	520
環境対策引当金	809	309
その他の引当金	32	—
営業外電子記録債務	63	143
その他	9,970	8,707
流動負債合計	51,870	43,712
固定負債		
社債	1,505	1,654
長期借入金	15,435	13,759
退職給付に係る負債	937	925
環境対策引当金	927	618
その他の引当金	246	233
その他	1,870	2,463
固定負債合計	20,922	19,654
負債合計	72,792	63,366
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,939	14,939
資本剰余金	15,071	15,071
利益剰余金	46,420	48,426
自己株式	△2,026	△1,986
株主資本合計	74,405	76,451
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,421	1,797
繰延ヘッジ損益	—	△42
為替換算調整勘定	796	2,585
退職給付に係る調整累計額	665	594
その他の包括利益累計額合計	2,883	4,934
非支配株主持分	2,134	1,761
純資産合計	79,423	83,147
負債純資産合計	152,216	146,514

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	61,374	70,360
売上原価	40,668	45,929
売上総利益	20,705	24,431
販売費及び一般管理費	17,066	18,586
営業利益	3,639	5,844
営業外収益		
受取利息	1,362	1,526
受取配当金	143	141
不動産賃貸料	79	79
為替差益	—	1,108
持分法による投資利益	729	824
デリバティブ評価益	398	—
その他	260	568
営業外収益合計	2,972	4,248
営業外費用		
支払利息	1,921	2,016
為替差損	1,535	—
デリバティブ評価損	—	2,117
その他	93	102
営業外費用合計	3,550	4,236
経常利益	3,061	5,856
特別利益		
固定資産売却益	2,111	5
投資有価証券売却益	—	98
特別利益合計	2,111	103
特別損失		
固定資産処分損	14	18
環境対策費	1,984	6
和解金	—	1,033
その他	0	—
特別損失合計	1,998	1,059
税金等調整前四半期純利益	3,174	4,900
法人税等	1,060	1,409
四半期純利益	2,113	3,491
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	9	△498
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,104	3,989

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	2,113	3,491
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	72	373
繰延ヘッジ損益	5	△85
為替換算調整勘定	353	1,706
退職給付に係る調整額	△112	△71
持分法適用会社に対する持分相当額	△140	276
その他の包括利益合計	178	2,199
四半期包括利益	2,292	5,690
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,446	6,051
非支配株主に係る四半期包括利益	△154	△360

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(追加情報)

(係争事件の発生)

当社の連結子会社であるSipcam Nichino Brasil S.A. (以下、「SNB」という。)は、FMC QUÍMICA DO BRASIL LTDA. (以下、「FMC」という。)から、受託し包装作業を行っていた製品が重武装による強盗により持ち去られた事件につき、損害賠償請求訴訟の提起を受けていましたが、2025年12月31日、当社取締役会にて、SNBがFMCとの間で和解に合意することを決定しました。

1. 訴訟の提起から和解に至るまでの経緯

SNBにおいて2023年7月26日に重武装による強盗事件が発生し、FMCから受託し包装作業を行っていた製品が持ち去られました。これに対し、2023年10月10日付でFMCから45百万レアルの損害賠償請求訴訟が提起され、2025年5月14日付で45百万レアルおよびこれに対する利息ならびに訴訟費用の支払いを命じる判決が言い渡されました。これに対し、2025年6月24日付「当社連結子会社に対する訴訟の判決および控訴に関するお知らせ」に記載のとおり、当社グループとしては、契約上の責任範囲に関する見解に相違があると考え、当該判決に対し控訴しておりましたが、和解条件を総合的に勘案した結果、和解による解決が合理的であると判断し、2025年12月31日の当社取締役会においてSNBがFMCとの間で和解に合意することについて決定しました。本和解により、当該訴訟は全て終結する見通しです。

2. 訴訟を提起した者の概要

(1) 名称：FMC QUÍMICA DO BRASIL LTDA.

(2) 所在地：Avenida Doutor José Bonifácio Coutinho Nogueira, No. 150, Commercial Complexes 103, 105, 107, 108 and 109, Jardim Madalena District, in the municipality of Campinas, State of São Paulo, CEP 13091-611

3. 本和解による特別損失の計上

本件により、当第3四半期連結累計期間に特別損失として1,033百万円を計上しています。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	農薬	農薬以外の 化学品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	57,178	2,892	60,071	1,302	61,374	—	61,374
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4	0	4	551	556	△556	—
計	57,183	2,893	60,076	1,854	61,931	△556	61,374
セグメント利益	3,570	514	4,084	244	4,329	△689	3,639

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、造園緑化工事、不動産の賃貸、物流サービス、農薬残留分析ほかを含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△689百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△689百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	農薬	農薬以外の 化学品	計				
売上高							
外部顧客への売上高	65,663	3,117	68,781	1,579	70,360	—	70,360
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7	0	7	536	543	△543	—
計	65,670	3,117	68,788	2,115	70,903	△543	70,360
セグメント利益	5,472	631	6,104	381	6,485	△641	5,844

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、造園緑化工事、不動産の賃貸、物流サービス、農薬残留分析ほかを含んでいます。

2 セグメント利益の調整額△641百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△641百万円が含まれています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

(和解金)

追加情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しています。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,500百万円	1,770百万円
のれんの償却額	180 "	76 "